



チャーチ・ワールド・サービス アジア・太平洋 (CWSアジア・太平洋)

チャーチ・ワールド・サービス (CWS) はアジア太平洋地域における最も古く最も大きなキリスト教的な団体の一つで、数十年にわたりおよそ 1,000 人のチームメンバーとパートナーたちと共に活動しています。タイに地域事務所、インドネシア、東ティモール、パキスタン、アフガニスタン、カンボジア、ラオス、ベトナムに活動実施のための事務所があります。

アジア太平洋地域における長い歴史と、強いパートナーシップを活用し、CWS アジア・太平洋地域事務所は、CWS のアジア太平洋地域におけるチームや、かけがえのないパートナーたちとの調整と協働の要となっています。また、地域レベルの会合、研修、ワークショップなどの拠点にもなっています。CWS はパートナーと共にミャンマー、バングラデシュ、中国、フィジー、日本、インド、ネパール、フィリピン、スリランカ、タイでプログラムを実施しています。

CWS は GNDR、アクト・アライアンス、国際ボランティア機関評議会 (ICVA) のメンバーです。支援の質やアカウンタビリティ向上のために、スフィア・プロジェクトやジュネーブの HAP 事務局とも協働しています。www.cwsasiapacific.org/

2007年よりGNDRのメンバーとなって以来、CWSはアフガニスタンにおけるVFLの国内調整機関の役割を担っています。

国際協力NGOセンター (JANIC)

国際協力 NGO センター (JANIC: ジャニック) は、飢餓、貧困、人権の侵害から解放された、平和で公正な地球市民社会の実現を目指して 1987 年に設立されました。日本の国際協力 NGO 団体を正会員とする、日本有数のネットワーク型国際協力 NGO です。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、JANICの会員 NGO のうち 50 団体以上が迅速に被災地で活動を開始しました。日本の NGO がこれまでの海外での活動経験をいかして、適切かつ効果的な支援活動を行っていきけるよう、NGO 間、NGO と公的組織・関連ネットワーク、NPO、地元の多様な団体との連絡・調整を目的に、JANIC では「震災タスクフォース」を 3月12日に設立しました。

現在、JANIC における復興支援の取り組みとして、(1) 支援活動環境の向上を目的とするファシリテーション、(2) 福島地球規模課題、(3) 災害準備・復旧・緩和のためのネットワーク化、を活動の三本柱として位置づけ、コンサルテーション、情報提供・情報発信、ネットワーク・マッチング支援、アドボカシーなど様々な活動を展開しています。

地球市民社会の防災ネットワーク (GNDR)

地球市民社会の防災ネットワーク (GNDR: Global Network of Civil Society Organisations for Disaster Reduction) は、中～低所得国の社会的弱者支援を行う 600 を超える組織と個人を擁した、主要な CSO 連合の一つです。

GNDR の強みは、国内外の NGO、学術・研究機関、国家・地域の市民社会ネットワーク、そして地域を基盤とする小さな草の根団体に至るまで、それぞれのメンバーの関与の深さ、スキル・知識の多様性、広範囲にわたる会員分布にあります。

GNDR は中間支援を行うコーディネート役として、団体間のみならず領域やセクターを超えた横の連携を橋渡ししています。

お問い合わせ

Church World Service-Asia/Pacific
伊藤洋子
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 6 階 4 号室
Tel: +81-(0)80-4462-0716
E-mail: cwsstokyo@gmail.com

国際的な市民社会の防災協力ワークショップ

～世界の人々と協力して災害に強いコミュニティづくりを目指そう～

日時: 2012年9月20日(木) 10:00~17:00
場所: JICA 研究所 6階 セミナールーム 600
(東京都新宿区市谷本村町 10-5)

時間	内容	発表者
10:00-10:10	開会	CWS-Asia/Pacific
10:10-10:30	【基調講演】 防災・減災に関するグローバルな取り組みと市民社会参加の重要性 - 兵庫行動枠組の実施進捗と課題 ポスト兵庫行動枠組に向けて	松岡由季氏 国連国際防災戦略事務局 (UNISDR) UNISDR 駐日事務所代表
10:30-11:15	【講演①】 国際的な市民社会による防災・減災政策に関する議論の取り組みの現状と GNDR の貢献、そして日本の市民社会への期待 (※15分間の質疑応答を含む)	マーカス C. オクスレイ氏 地球市民社会の防災ネットワーク (GNDR) 代表
11:15-11:30	休憩	
11:30-12:00	【講演②】 日本の市民社会の防災・減災政策に対する関与と取り組みの現状 (※10分間の質疑応答を含む)	石井布紀子氏 (特活) さくらネット 代表理事
12:00-12:45	【事例紹介】 国家防災戦略 (SNAP) 策定の過程での市民社会と行政機関の協力	グラム ハイダー氏 アフガニスタン・イスラム共和国 地方復興開発省 (MRRD) 大臣シニア アドバイザー (政策) 及び SICA 事業担当
12:45-13:45	昼食	
13:45-14:15	【グループ討論の準備】 ・ 基本・背景情報のハイライト (兵庫行動枠組、GNDR や防災・減災と持続的開発の関係など) ・ 討論のトピックと進め方の共有 ・ グループ分け	CWS-Asia/Pacific
14:15-14:30	休憩	
14:30-16:15	【グループ討論】 地域レベル、世界レベルでの防災・減災政策の取り組みにおける市民社会の役割 グループ1: ポスト兵庫行動枠組 (HFA) に盛り込むべき内容について グループ2: 日本の市民社会がグローバルなネットワークに参加していくことの意義や方法について	尾上昌毅氏・甲州潤氏
16:15-16:45	各グループからの報告と全体での共有	全体
16:45-17:00	閉会	JANIC

Global Network of
Civil Society Organisations
for Disaster Reduction



開催にあたって

2005年、神戸で開催された第二回国連防災世界会議で、現在でも国際的な防災・減災の枠組としては唯一のものとなっている「兵庫行動枠組（HFA: Hyogo Framework for Action）」が採択されました。これを契機として、2007年7月にジュネーブで開催された第1回国連国際防災戦略事務局（UNISDR）防災グローバルプラットフォーム会合では、「地球市民社会の防災ネットワーク（GNDR: Global Network of Civil Society Organizations for Disaster Reduction）」が設立されました。

これまで、GNDRは「市民の声（VFL: Views from the Frontline 2011）」というアクションリサーチ手法を用い、世界80カ国の500を超える市民団体、NPOの参加を得て世界中の市民から声を集め、それを国や地域の防災・減災の取り組みや計画に反映させる取り組みを行ってきました。

そして、GNDRは、2015年に日本で開催が予定されている第三回国連防災世界会議で採択される見込みのポスト兵庫行動枠組に、国際的なネットワーク活動を通じて市民社会の声を反映させる役割を担っています。昨年の東日本大震災は、私たちに大きな痛みと共に多くの教訓と課題も残しましたが、それらを世界中の市民社会の人々の声へ反映させることに、高い期待が寄せられています。

今回、CWSとJANICでは、この9月にGNDRのマーカス・オクスレイ代表が日本政府と協議のために訪日される機会を捉え、グローバルな市民社会による防災・減災の取り組みに日本の市民社会が関わり、貢献できる方法をみなさんと共に考えたいとの趣旨から当ワークショップを企画しました。

東日本大震災の支援にあたって、日本は世界中の人々から支援を頂きました。その恩返しの意味も込めて、地球市民社会の一員として、貴重な経験を世界の人々のために役立てる良い機会と捉えてご参加頂ければ幸甚に存じます。

登壇者プロフィール

松岡由季氏

国連国際防災戦略事務局(UNISDR)
UNISDR 駐日事務所代表



民間企業海外事業部、在ニュージーランド日本国大使館、在ジュネーブ国連日本政府代表部（外務省）勤務を経て、2004年より国連国際防災戦略事務局(UNISDR)本部にて国連防災世界会議に関するプロセスに従事。2005年4月よりUNISDR事務局長特別補佐官を勤め、2008年1月よりUNISDR駐日事務所（在神戸）に着任、2009年UNISDR駐日事務所代表に就任し、現在に至る。
ニューヨーク大学大学院修士号取得。

石井布紀子氏

特定非営利活動法人さくらネット
代表理事



兵庫県生まれ。1995年に発生した阪神・淡路大震災の際に被災し、その後、自主防災活動や災害ボランティア活動、コミュニティビジネス支援、福祉教育・防災教育の推進、自治体とNPO・地域組織等の協働推進、災害時要援護者支援、地域福祉に関するしくみづくり支援、などに携わる。関西学院大学他の非常勤講師、中央防災会議委員他、多数のアドバイザー・委員として全国各地のみなさまとの交流・協働の機会に恵まれる。

マーカス C. オクスレイ氏

地球市民社会の防災ネットワーク (GNDR)
代表



20年以上に渡り、非政府セクターにおける災害リスク管理に従事。災害応急対応、復旧・復興、事前準備、災害軽減に関するプログラムを、アフリカ・アジア・欧州の広範囲で展開した経験を持つ。2007年6月には、地球市民社会の防災ネットワーク（GNDR: Global Network of Civil Society Organizations for Disaster Reduction）の初代議長に就任。

GNDRに従事する以前は、英国の国際NGOである Tearfund の理事として活躍。災害関係業務を広く統括するほか、政府・政府間・非政府セクター間において、貧困削減に資する防災概念の普及および実践を推進する指導的な役割を担った。専門は土木工学およびプロジェクト・マネジメント学。

グラム ハイダー氏

アフガニスタン・イスラム共和国
地方復興開発省（MRRD）
大臣シニアアドバイザー（政策）および SICA 事業担当



2005年1月よりアフガニスタン・イスラム共和国地方復興開発省(MRRD)に在籍し、緊急事態対応部のチーフプログラムコーディネーターとして5年間勤務。

現在、アフガニスタン・イスラム共和国第二副大統領率いる国家緊急事態委員会のメンバーでもある。災害管理に関する国際セミナーやワークショップ等での講演実績の他、アフガニスタンにおける災害管理についても豊富な経験を持つことで知られる。18年以上に渡り、国連や地域のNGOおよび国際NGOでの活動に従事。ロンドン大学東洋アフリカ研究所開発学修士。

甲州潤氏（ファシリテーター）

企業の経営・品質・業務の改善に関わるプロジェクトマネジメントとコンサルティング業務を中心として活動中。

NPO 法人 日本ファシリテーション協会災害復興支援室メンバーとして、支援団体へのファシリテーション講座、会議・ワークショップの企画・運営に携わる。

尾上昌毅氏（ファシリテーター）

製薬企業にて営業、研修、マーケティングを担当後、2009年より医薬マーケティングコンサルタントとして独立し活動中。ワークショップ形式での研修、コンサル方法に興味を持ち、2010年よりNPO 法人日本ファシリテーション協会に所属。現在は災害復興支援室にて支援団体のワークショップ運営などを支援している。

本イベントのねらい

今後の国際的な防災枠組（2015年の第三回国連防災世界会議で採択される見込みのポスト兵庫行動枠組）に、日本が世界と繋がり、市民社会の声を広く集めて貢献する方法を、共に考えましょう。

ワークショップでは

- ▶ 防災におけるCSOの役割、政策環境、ポスト兵庫行動枠組に反映させ得るグローバルなCSO声明について、その議論の国際潮流をGNDRから紹介します。
- ▶ 日本の市民社会として、その国際潮流への参加や、今後のプロセスにおける日本のCSOならではの貢献について考えましょう。

その他

- ▶ 使用言語：日本語・英語（同時通訳有）
- ▶ 昼食は各自でご用意ください。